



《参加したウクライナのみなさん》

鉢盛おろし

ウクライナとの交流

秋と言えば、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋などが連想されると思いますが。中でも私が毎年楽しみにしているのは紅葉です。樹々の葉が黄色や赤色に色づき、野山を美しく装飾する姿を鑑賞することで、季節の移ろいや情緒を味わうことができます。皆さんにとって秋といえば何でしょうか。

さて、ウクライナから避難している方々を支援するため、9月の大博覧会において「ウクライナボルシチまつり」が緑のロシアムで開催されました。

この企画は、村民と名古屋市にあるNPO法人日本ウクライナ文化協会の職員が親戚で、朝日村産ビーツが取り持った縁で、この交流イベントが実現したそうです。ウクライナの最も代表的な家庭料理であるボルシチを味わい、祖国の歌の披露などで交流しました。

まつりは短時間でしたが、避難している皆さんにとって、つかの間の楽しい一時であったように感じられ、朝日村でこのようなイベントが開催されたことに大きな意義があったと思います。一日も早く、ウクライナに平和が訪れることを強く願いたいと思います。

これから寒い冬がやってきます。気象庁による今年の冬の見通しは、ラニーニャ現象が発生しているため、冬は厳しい寒さの可能性があるようです。

また、春先から続く円安や物価高騰、コロナとインフルエンザの同時流行など私たちの生活は様々な不安を抱えています。早く、このような不安から脱出できる世の中になってほしいと願っています。

令和4年度 朝日村文化祭

2022年11月5日(土)～11月6日(日)

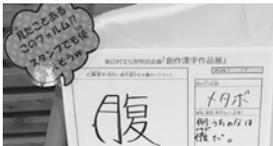
11月5日(土)・6日(日)に令和4年度朝日村文化祭が新型コロナウイルスの予防対策を徹底し、開催となりました。

トレセンアリーナでは、「保育園児・小学生・中学生の絵画・書・自由研究」や、「村内各種団体・サークルの作品」の創意工夫溢れる展示が行われ、「手作り小物」などの素敵な作品も展示・販売されていきました。また、大活躍した「朝日村消防団ラッパ班」の展示もあり、栄光の軌跡がよくわかるものでした。

公民館駐車場では、「飲食物等の出店」「木工体験・木工用品展示」「フリーマーケット」「交通安全啓発のためのパトカー等の展示」も行われ、大勢の人で賑わっていました。

マルチメディアセンターでは、「中古本のプレゼント会」「創作漢字作品展」が開催され、気になる本を見つけられ、創作漢字も興味深く面白いものでした。

また、美術館・資料館も無料開放となっており、展覧会作品作家である加藤ご夫妻からそれぞれの作品の説明や思い入れを聞き楽しく鑑賞できました。



マルチメディアセンター展示



公民館駐車場出店・展示



トレセンアリーナ作品展示

◇じゃんけん大会

5日午前には、オープニングイベントとして、松本山雅FCオフィシャルマスケットの「ガンズくん」と、山雅グッズをゲットするためのじゃんけん大会が、今年も行われました。参加者は、「ガンズくん」とのじゃんけんに一喜一憂し、とても楽しんでいます。また、ガンズくんとの記念撮影も良い記念になりましたようです。



じゃんけん大会



◀加藤邦彦氏作
▼加藤温子氏作



美術館・資料館展示

◇文化発表会

5日午後には、文化発表会が行われ、今年も新型コロナウイルス

影響で練習等の活動が制限された中、出演者は精一杯練習の成果を発揮していました。「朝日小学校金管バンド」の発表は、今年初めての有観客で、ジブリメドレーのステージドリルや手話を交えたすばらしい演奏を元気いっぱい披露し、観客のみなさんを楽しませていました。

「朝日村消防団ラッパ班」による発表では、8人という小人数でしたが、力強く洗練されたアリーナに響き渡るラッパ演奏により、優勝者の実力を十分に感じられるものとなりました。「コーラスグループひまわり」の今年の発表は、昨年とは違い映像ではなく、ステージでの生演奏となり、美しいハーモニーで観客を魅了していました。



朝日小学校 金管バンド



朝日村消防団 ラッパ班

キッズダンス「サンライズ」による発表では、子どもたちが楽しそうにリズムに乗ったダンスを披露し、観客の皆さんは、その姿を動画や写真に収めて、楽しい雰囲気の間奏となりました。



コーラスグループ ひまわり



ダンスサークル サンライズ

文化講演会

11月6日(日)13時30分から「子どもたちがもつと元気に輝く地域に」地域の可能性を引き出す」と題し塩尻市郷原出身のNPO法人わおん理事長山田勇先生を講師に迎え、文化講演会が公民館で行われました。

山田勇先生は小学校6年生の頃マンガをきっかけに環境問題に関心をもち中学、高校では本で環境問題を学び、滋賀県立大学の環境学部に進学し環境問題を解決するために

意識を変えることをメインに学んだそうです。

環境教育のノウハウを学ぶ実習を通してネイチャーセンタリー的な施設や社会教育関係施設で働く地域の人や子どもたちが立ち寄れる街の縁側みたいな存在であったと語られていました。

結婚を機に地元に戻りNPO法人わおんを立ち上げ、試行錯誤しながらさまざまな地域活動を実施しながら、子どもたちがもつと元気に輝く地域を目指す為に①子どもたち自身が元気に育つ体験活動を増やす②地域、社会の不安を取り除くために地域や社会課題に前向きに取り組む人を増やす③親や地域の大人たちも元気で居るために森で疲れを癒してもらおう様々な活動を行っているそうです。

地域の自然を生かす活動として、①わおん自然探検隊小学校3年生から中学生まで参加できる年間を通じた自然体験活動を行っていて、今年で13年目になり現在61人の子どもたちが登録して活動を行っているそうです。②森カフェプロジェクトカフェのよ

うに気軽にに行ける森で子どもは自然と触れ合い、大人は森に囲まれてリラクセスする場を提供するよう、毎月5回程度開催し、0歳～大人まで参加可能です。

その他、色々な活動を実施して森をもっと身近に感じられるような取り組みを試行錯誤しながら、安全管理、自然体験の指導のネットワークを活用して学び、全体を通して、自ら感じ、知り、考え、自分の意志で自由に行動することで成長を期待するプログラムを展開しているそうです。

地域の産業を活かす為に子どもだけの街「こどもしおじり」を塩尻市の事業として2016年から協働開催し、子どもたちが主体の疑似的な街に関わることで、街や社会の仕組みを知り、本物の街づくりに関心を持つ事を目指し、約40の仕事、約10のアカデミーがあり、専門家から仕事を教わり、体験することが出来る事業を展開し子どもたちの想像力を育んでいるそうです。

地域の可能性を引き出すために、子どもも大人も、やっ

てみたいことに挑戦する事が大切で失敗もあるけれど、自分で考え、決断し、行動する事は自らの成長、自己肯定感の向上にもつながるので何事も挑戦してほしいと話していました。

今後朝日村でも、NPO法人わおんが行う活動があるかもしれないので、その際は自然体験に参加してみたいという方が多いか。



講演風景

令和4年度 朝日村表彰式受賞者

11月6日(日)10時から朝日村役場において令和4年度朝日村表彰式が行われました。

【表彰状】

区分	功 勞	功 勞
氏 名	にがや ともこ 二芽 富子 氏	NPO法人レスパイトケアはちもり
地区名等	沢下	古見
受賞概要	朝日村の交通安全の推進に寄与された。	朝日村の障がい福祉の向上と社会参加の促進に寄与し、法人化20年目を迎えた。

【感謝状】

区分	功 績	善 行	善 行	善 行	善 行	善 行	善 行
氏 名	一般社団法人塩尻医師会	みむら あつし 三村 篤志 氏	松本信用金庫	まえだ たろう 前田 太郎 氏	あかはね せつこ 赤羽 節子 氏	なかむら せきじょう 中村 石浄 氏	はら かつこ 原 香津子 氏
地区名等	松本市	中 組	松本市	原 村	松本市	松本市	安曇野市
受賞概要	新型コロナウイルスワクチン集団接種事業の実施にお力添えいただき村民の健康と安全・安心の確保に寄与された	篤志な寄附行為をされた	篤志な寄附をされた	観光施設に工具を約30点寄贈された	上條俊介が疎開先で制作した記録がある石膏像を朝日美術館に寄贈された	高島仁・作《朝日村》水彩画8点を朝日美術館に寄贈された	上條俊介と交際のあった洋画家・西澤洋の洋画3点を朝日美術館に寄贈された

朝日村大博覧会VI



9月24日(土)に朝日村大博覧会6が、緑のコロシアムにて盛大に開催されました。今回は3年ぶりということ

で、盛りだくさんの内容でした。会場では出店販売も行われて、その場で楽しみながら、飲食出来るものから、果物、野菜、木工製品など色々なお店が並んでいました。ステージでは歌や踊り、ゲーム、マジックショーなど絶え間なく催され、会場を賑わせていま



ステージイベント風景

した。メイン会場のすぐ隣では野天茶会も開催されていて、誰でも気軽に茶会体験ができました。今回のメインイベントは、「ウクライナボ

ルシチまつり」と称してウクライナ避難民の方々に来ていただき、朝日村産のビーツを使って郷土料理ボルシチを調理して頂き、それを来場者皆さんと味わうという企画でした。当日の朝早くからウクライナの方々と朝日ヘルスメイト、商工会女性部の皆さんが協力をして、ボルシチを作り、12時の販売開始時間には大行列ができ、1杯500円のボルシチが瞬く間に売れていき



ボルシチ

ました。このイベントの収益金は特定非営利活動法人日本ウクライナ文化協会を通じて、侵攻で親をなくした子供たちへの寄付金にあてられました。

朝日村大博覧会実行委員会の上石保之会長は「実行委員の人たち皆で、企画から準備をして頂いて今日が出来たことが本当にうれしく思います。」小林村長も「朝日村活性化のためにみんなが力を合わせてくれて本当にありがたく思います」とコメント。大博覧会関係者、ウクライナの方々、来場者みんなが楽しく過ごせたイベントとなりました。



賑わう会場

クラフト体験館 まつり

9月24日(土)クラフト体験館まつりが、朝日村大博覧会と同日開催されました。体験館の敷地内には、テントが6〜7張り設置され、お客さんを歓迎していました。体験されているお子さんの楽しそうな様子が、とても印象的でした。



当日のクラフト体験館



体験参加者の方

木工製品展示会

9月22日(木)〜9月24日(土)木工製品展示会が、朝日村大博覧会と日程的に重なるよう開催されました。会場となったASAHI里山オフィースには、数多くの個人および団体の地元木工家の作品が展示されていました。



ねずこ下駄



展示風景



サラダの里通信

あさひ保育園運動会



うさぎ組 (年少) 玉入れ



10月6日(木)あさひ保育園において運動会が行われました。3年ぶりに以上児(3〜5歳児)とその保護者(各家庭2名まで)みんなが集まって開催される運動会は、年長児にとっても初めての経験であり、多くの観衆に囲まれて最初は戸惑いも見られましたが、競技が始まると徐々に元気を取り戻し、笑顔で楽しんでいました。

朝日小学校音楽会



2年1組の合奏

10月28日(金)朝日小学校音楽会が行われ、1年生の部、2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部に分け、自分たちの出演時以外は教室から鑑賞する形で開催となりました。保護者の鑑賞は各家庭1名まで、代わりにYouTube生配信でより多くの保護者が鑑賞できるように配慮され、各学級が、学級歌、合唱、合奏を行い、これまで練習してきた成果を披露していました。

令和4年度 第72回朝日村体育祭 “スポーツ・フェスティバル”



なわとび教室

これまでの分館対抗形式から変わり、初の開催となった「スポーツ・フェスティバル」ですが、雨天の中でも約450人の方が来場し、スポーツを楽しんでいました。

10月10日(月・祝)第72回朝日村体育祭が行われました。雨天のため会場を2つに絞り、農業者トレーニングセンターではバドミントン教室、なわとび教室、ソフトバレー教室、ふわっとテニス教室が、屋内ゲートボール場ではモルックの体験と体力測定が村内スポーツ団体の指導のもとで行われました。

なわとび教室では4種類のジャンピングボードを用意しており、普段2重飛び、3重飛びなどができない人でも高度な技ができるようになるため、その不思議な感覚を多くの来場者が体験し、楽しんでいました。ジャンピングボードは短縄の技を競う競技でも使用されているそうです。なわとび教室ではこの他にも大縄跳びやブーメラン投げなどいろいろな遊びを体験でき、子どもたちの人気コーナーとなりました。



モルックの体験



ソフトバレーボール教室

熊久保だより

朝日美術館・民俗資料館発行



令和4年度

展覧会報告

4月1日～5月29日

松本城下の水彩画家

高島仁回顧展

松本県ヶ丘高校で長く美術教師を勤め水彩画家として活躍し、中信地方の美術の発展に貢献、多くの後進の美術家を育てた高島仁の業績を紹介する回顧展です。

本展では高島の教え子等で結成された高島仁回顧展実行委員会の皆様より貴重な作品を拝借し、水彩画やデッサン等64点を紹介しました。



高島仁《ぼんぼん》

会期中は多くの教え子の方々が来館し、当時の思い出が語り合われました。



中村石浄氏(右)と山田和夫氏

4月29日には日本画家の中村石浄氏と洋画家の山田和夫氏によるギャラリートークが開催されました。両氏は美術部時代に高島から直接絵画指導を受け、実際に描く姿を見、その後も交流していた人物です。無数の線を重ねて描く高島の絵は、一見簡単そうに見えるが、決して真似できないと語っておられました。時折笑いを交えながら語られる高島との思い出や作品解説に耳を傾けた

温かいひとときでした。

6月4日～7月31日

カミジヨウミカ展2021+1

芋虫のような手指で描く自分

安曇野市在住のカミジヨウミカさんは車イス生活を送りながら幅広い創作活動を続ける現代アート作家です。

ペットボトルのラベルや錠剤の空き容器などをリサイクルして、カラフルでポップな作品にしてしまうミカさんは、作品タイトルもユニークで、思わず笑みがこぼれます。



見学する朝日小児童のみなさん

見学に来たあさひ保育園や朝日小学校のみなさんも、ミカさんの作品をヒントに身近なもので創作する楽しさや、想像や発見する面白さを感じ取っていました。ミカさんと美術館で対面した児童たちは

次々に質問をし、興奮気味に感動を伝えていました。

今回、ミカさんの個展では過去最多となる作品を会場いっぱいに展示し、「ミカ・ワールド」を作り上げました。「おもしろオカシク楽しく描く」ミカさんの、人を楽しませたいという思いが会場全体にあふれていました。

7月9日、ワークショップ「ペットボトルをユカイにデコろう」では、小学生も参加し、ペットボトルを紙粘土で飾りつけました。その後、色付けた完成作品を館内に展示させていただきました。



制作中



完成品

7月17日のギャラリートークでは、ミカさんのライフスタイルも語られ、作品背景を知ることができました。コロナ感染対策を行いながらの開催ではありましたが、村内外からの多くの来館者が訪れ、リピート率の高い展覧会となりました。

8月11日～9月25日

朝日美術館

開館20年の歩み



7/17ギャラリートークの様子

予定していた「朝日村つくりびと」の開催は来年度に延期する運びとなりました。

本年度は朝日美術館開館20周年ということで、開館から現在まで全ての展覧会を、収蔵作品とともにポスター・パンフレットで振り返りました。

会場を一巡すると朝日美術館が20年間で開催した百十三の展覧会を通覧でき、村の文化芸術を担う朝日美術館の役割を再認識する機会となりました。

親族でもあり長野大学副
学長を務める熊谷圭介氏によ



俊介忌は好天に恵まりました

また、上條俊介記念館とし
ての20周年を記念し、俊介の
命日にあたる9月11日に「俊
介忌」を初めて執り行いまし
た。



開館記念展のポスターなど



「加藤邦彦・温子展」会場風景

加藤邦彦・温子展は、11年
前にも当館で開催しました。
約40年作家活動を続けた
ドイツから帰国し、現在は伊
那市を拠点に制作を続ける
二人は、世界的にも評価さ
れ、今なお「生命的な神秘」を
見つけ導ぶ作品を作り続け
ています。

10月8日～11月27日
加藤邦彦・温子展
自然と共に生きる

「上條俊介の松本の都市景
観像と関連作品群」と題した
講演会やパネルディスカッ
ション、献花式が行われ、記
念すべき式典となりました。

油彩画と石版画による温
子作品には平和へのメッセー



10/30石版画を解説する加藤夫妻



森の中を歩いているようです

本展覧会では、邦彦作品で
会場に「森」を表現する構成
としました。さまざまな生命
をモチーフとした木彫による
「生きもの」が、窓から見える
朝日村の緑の樹木と融合し生
命感に溢れていました。

石盤とは、黒板をコンパクト

石盤(せきばん)・石筆
わが国では、江戸時代の「読
み・書き・算盤(そろばん)」
と言われた寺子屋教育に替わ
り、明治時代に近代教育が始
まりました。それに伴い、国
語・算数・理科・社会・修身
といった多くの教科を学習す
るようになり、各教科ごとに
ノートが必要になりました。
当初は各自で半紙を綴じた物
を用意し、毛筆で書きこんで
いました。

ジが込められており、永遠の
博愛精神を感じることができ
ます。世界情勢に寄せる自身
の心境によって作風を静かに
変化させ、西洋の伝統的な手
法と歴史文化を吸収しながら
培った技術の高さを観ること
ができました。

民俗資料館のお宝拝見⑨

収蔵作品から「再生」を
テーマに学芸員が選んだ作品
を紹介します。

次回展覧会
12月10日～12月25日
R4ベストセレクション

トサイズにしたようなもの
で、粘板岩を板状にした「ス
レート」を木枠にはめ込んだ
ものです。この石盤に「ろう
石」製の「石筆」で文字や数字
を書き、拭き布で消して繰り
返し使用しました。こうする
ことで、貴重な紙を消費する
ことなく、半永久的に使える
ことから、特に低学年用とし
て活用されました。

明治後半、国産用紙が増産
され、鉛筆も国産化されるよ
うになり、ノートと鉛筆は品
質が低いな
がらも、低
価格のため
普及してい
きました。



石盤と石筆

ボルシチまつりinあさひ

9月24日(土)、村産のビーツを使ったウクライナの郷土料理「ボルシチ」を販売し、売上金を戦災孤児支援にあてるチャリティイベント「ボルシチまつり」が緑のコロニウムにて開催されました。

このイベントは、NPO法人日本ウクライナ文化協会(名古屋市)副理事の榊原ナタリーヤさんが2年前に村産のビーツを食べたのがきっかけだそうです。日本にいる避難者と村民が交流する機会を設け、ビーツの周知にもつなげようと、村観光協会とウクライナ文化協会が企画し、村の生産農家の下田明範さんがビーツを無償提供し実現されました。

ボルシチはウクライナのご家庭に欠かせない「おふくろの味」で



販売の様子

ユネスコは7月、ロシアの侵攻により食文化の存続が脅かされているとして、「ウクライナのボルシチ料理の文化」を「緊急に保護する必要のある無形文化遺産」のリストに登録しています。

ボルシチは一杯500円で限定300食が提供されましたが、一時は行列ができるほどの人気ぶりでした。またステージ発表もあり、村内外の団体や個人が歌やダンス、マジックなどを披露し、またウクライナの皆さんは同国の歌曲「ああ、草原の赤きガマズミよ」を披露し、会場を盛り上げていました。

売上金と会場で集めた募金は文化協会を通じ、侵攻で親を亡くしたウクライナの子どもに送られるそうです。



ウクライナの現状



ボルシチ

窓口情報

※本人の了承を得て掲載しています。

おめでた

地区名	出生児	月日	父	母
御馬越	粟津原梨桜	11・7	凌	結子

おくやみ

地区名	氏名	年齢	世帯主
上組	青柳 政文	85	青柳 信夫
御道開渡	齊藤 文成	85	齊藤 喜代子
沢下	二茅 保弘	78	二茅 富子
西洗馬	中村 千鶴	87	中村 牧夫
三ヶ組	市川ウエコ	95	市川 肇
一の沢	清水 紀子	75	清水 照男



みんなのアトリエ



朝日小学校4年1組
おおくほ さき
大久保 咲希 さん
「回向柱にさわる自分」

光の当たるところが白っぽくなるように薄い色で塗りました。



朝日小学校6年1組
おくほら さな
奥原 紗奈 さん
「古川寺の鐘」

鐘の影の部分塗るのがむずかしかったです。

※訂正…9月16日発行No465のP4おらが村の地元職⑧ (有)清沢朝日産業の「基礎工事」の写真が実際施工されたものと異っており、訂正お詫びします。